

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気を大切にし、一人ひとりに沿ったケアを提供し、支援していく。各棟においての理念も掲げ、職員全員で確認している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	いつも職員一人ひとりが理念を心におき、ミーティング時に確認し、共有している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関に理念を提示し、また見学時などに説明するようにしている		家族や地域の方々との会話を増やしていきたい
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外への散歩時には積極的に近隣の方々とは話そうように努めている		家族との話し合いの機会を常にもつようにしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の自治会に加入しており、祭りやもちつきなどの地域活動に参加し、交流するように努めている		学校や保育園など枠を広げて取り組んでいきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行動は、起こしてないが、今後地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合いを行っていきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を受け止め、改善できるように努力している		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議では、利用者の暮らしぶりや職員のケアに関する実態など見てもらいながら、外部の目を通して意見や助言を得ながらサービス向上に活かしている。		会議の意見等を参考に職員が問題を共有し考え、実践に運ぶ体制を確立したい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との行き来はあるが、サービスの質までの向上まで出来ていないのが現状である		質の向上に向けてもっと取り組んでいきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がおり、職員にも関係書類を配布し、理解してもらえよう支援していった。		研修や勉強会などを開き、積極的に学んでいきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待への知識を持ち、職員間の会話の中での虐待の事実がないか把握したり、状態を観察し、把握するよう努めている。		ミーティング時にケアの対処法などを学んだり、職員のストレスが入居者にいかないよう話し合いをするようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情にはすぐに対応するように入居者と職員で話し合い、入居者の希望に沿うように努力している。		外部者へ表せる機会を作っていきたい
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には必ず健康状態など報告している。面会が少ないところには、定期的な電話連絡をしている。病院受診前後には必ず報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情は入居者家族の立場に立って対応している		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	休憩時間や申し送り、月1回のミーティング時に意見や提案を聞き、話し合いを行った上で、決まったことを職員に伝えている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の希望を考慮しながら、勤務ローテーションを作成している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員により入居者は安定して明るく生活できるよう支援し、職員間同士の悩み事にも耳を傾けて、働きやすい職場作りに努めている。		離職者・異動が最小限におさえられるように努力していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、積極的に参加する計画を立てており、研修後にはミーティング時に発表していただき、日々勉強していくことを勧めている。		研修・講習の参加を促し、一人ひとりのサービスの質を向上させていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設のケアマネの方とは、勉強会や交流を図り、サービスを向上していく取り組みをしている。		市のケアマネ会や参加し、他の施設の方との勉強会を開催している。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員個人個人の話の聞いたり、連休をつけたりして、少しでもストレスを緩和できるよう努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人ひとりの長所・短所を把握し、注意したり、良いことは引き伸ばすよう努力している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	相談時に本人の困っていること、不安なことを聴く機会をつくっており、また入居待機の間でも、いつでも来ていただけるような体制をつくっている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	相談時に家族の困っていること、不安なことなど聴く機会をつくり、いつでも相談できるような体制をつくっている。		家族の悩みを共有し、共に考えていく姿勢を保持していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族が必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応をしている。</p>		<p>相談されやすい雰囲気に対応していき、また知識を磨く努力をしていきたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>相談時に他の入居者と話をしたり、場の雰囲気に馴染めるよう支援したり、いつでも遊びに来れる体制をとっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家庭的な雰囲気で入居者に接し、自然に感情を出せるように努めている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時やケアプランの希望を伺うとき等、その人らしい生活を送ってもらうためには、家族の協力をお願いしている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族の状態を把握し、個々に応じた支援をしている。</p>		<p>今後も本人と家族が良い関係が築けるように支援していきたい</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家人以外にも馴染みの人との交流が途切れないよう、また場所も家人と協力し合い支援している。</p>		<p>もっと入居者の望む場所や会いたい人を聞いていき、取り組んでいきたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>職員が間にはいり、入居者同士の関わりが上手く行くように努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、面会にいたり、家族の相談にのって、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者に希望を聞いたり、消極的な方には、励ましあいながら、一人ひとりの思い等の把握に努めている。		入居者の希望などを日常生活の会話の中から読み取って、その人らしい暮らしに少しでも近づけるよう話し合っている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴等は家族や日々の背勝つの中での会話から少しずつ把握するよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの様子を観察し、小さいことも記録に残し、申し送りなどで伝えるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を聞き、家族面会に希望・要望を聞いている。その後職員で全員で話し合い、意見やアイデアを活かし作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院や転倒など大きな変化があったときには、職員・家族と話し合い新しい課題をだしている。		状態の変化により、計画が変更になった場合には、柔軟に対応していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さいことや会話等は記録し、介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族にも参加できる行事を設けて他の家族とも交流できる機会をつくっている。		地域や他の事業所との交流により、理解・協力を得るように働きかけたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者生活の拡充のために民生委員や消防等地域資源への理解・協力を得られるよう働きかけている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じてケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援を行なっている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	総合的なケアマネジメントなどについて地域包括支援センターと協働している		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を確保しており、希望があれば他の病院に受診している。		連絡は、常に密にしており、細かい情報まで双方が共有している。

グループホームさくら(東棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	様子観察時に気になる点などは職員が受診時に医師に伝え、医師から適切な治療を受け入れるよう支援している。		協力機関の医師と連携し、支援していきたい
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院の看護職員や当ホームの看護師に相談・指導を受けている。		今後も継続していきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院との連携で、情報を細かく報告・伝達し、協力し合っている。		今後も密に連絡・相談し柔軟に対応していきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や医師との話し合い後、職員家族の話し合い、希望に沿えるよう努力している。		職員間のチームワークも強化していくため今後も勉強していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族・医師と共に話し合いできる限り支援していけるよう努めている。		当ホームが初めての職員の方が多いため、医学面や技術面の勉強会を行い、誰もが自信を持って支援していけるようにしていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報交換を行い、自然なかたちで移動できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個々にあった言葉掛けや対応をしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>本人と向き合って話し、何気ない会話から思いや希望が表せるように支援している</p>	<p>常に入居者の立場で考えるように職員の意識の統一をしていきたい</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の希望や状態に合わせて柔軟に一人ひとりのペースを保てるよう努力している。</p>	<p>自分の希望を言える雰囲気作りに配慮していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者一人ひとりの希望や個性を出来るだけ寄り添った対応を心がけている。散髪は訪問にきていただいたり、希望があるかたは、望むところへ行けるよう努めている。</p>	<p>一人ひとりが好みの生活の中でしっかり把握し、さりげなくサポートしていきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者と一緒に野菜きり、盛り付け、片付けを行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の嗜好を把握し、状況に応じて食べ物の形態を変更したりしている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	全入居者の排泄チェック表を作成して身体状況と入居者の把握のために使用する。トイレ誘導の必要な人には、言葉掛けさりげなく支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回のペースで入浴を行っているが、入居者の状態によっては臨機応変に入浴ができるように対応している		入浴者一人一人が入浴を楽しみに生活していけるようにゆっくりと時間をかけて入浴介助したい
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠に対しては、個々のペースがあり、他の入居者への影響がないよう配慮し対応している。日中の活動を重視している。		眠れないときの気配りに配慮し、本人の状態をよく知り、話し相手等適切に対応していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの習慣や持てる力に応じて役割を見出し、食器洗い・洗濯干し・配膳準備等の場面作りをしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルなどもあるため、現在入居者は所持していない。		本人がお金を持つことの大切さは職員も理解しているので、買い物の機会を増やして本人にお金を出し、社会性を引き出していきたい
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿って、散歩や買い物に出かけるよう支援している。		畑が小さいことや庭へ出るために階段があるため、自由に外へ個人で出られない方もいるが、夏季はミニトマトやキュウリの収穫などに積極的に畑に出るようにしている
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力で墓参りや外泊などでもできる機会を作っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や状況によって支援して家族とのプライバシーに配慮しつつ支援している。		年賀状を書いてもらっているが、もっと家族への感謝の気持ちなど表せるよう支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人が気軽に訪問できるよう温かく笑顔をもって対応し、居心地よい雰囲気を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束を行わないことを認識しており、身体拘束のないケアを実践している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が死角になるためやむおえず施錠している。見当障害の入居者の安全を守るため家族には説明し、理解を得ている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に職員はホールで見守るように心がけて他の入居者の解除中であっても気配り目配りに心がけている。		細かい行動変化にも注意ができるように配慮したい
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々に応じ、ホームで保管している。また使用時には見守りを行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のための知識を得るため、研修に参加したり、服薬については必ず再確認するようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	地域の消防の訓練を受けたりしている		さらに徹底し、知識を深めることができるように取組たい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震などの避難が出来るように定期的に訓練行っている。		地域の方にも協力が得られるように働きかけていきたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や往診時で変化などがあつた際には、家族と話し合い、事前に防げるよう心がけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りで観察したことを話し合い、また日中居室にこもりがちな入居者には用事を作り声掛けするようにしている。		本人との会話、表情、訴えなどよく観察するように注意を払いたい
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はほとんどの方が自分で管理できないためこちらで預かり、服薬するときは、横で見守りしている。薬剤師と薬や状態について情報交換している。		誤薬がないように細心の注意を払い、症状の変化など、記録につけるなど、配慮していきたい
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の便の状態を把握し、水分補給や便秘薬の投与、ひどいときには、医師、看護師への伝達を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は声掛け、見守りまたは介助により、口腔ケアを行っている		

グループホームさくら(東棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェック表を作成している。水分はこまめにとっていただけるよう好きな飲み物を用意している。		継続し、一人ひとりの状態を把握できるように努力する。水分摂取が少ない方には少量を回数を増やすなど工夫していききたい
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	情報・知識の共有をし、マスク・手洗い・消毒など行っている。手すりやトイレなどの共用部分の消毒には塩素水を常に使用している		職員全員が情報を把握し、知識をつけられるように実践していききたい
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用したまな板・台拭きなどは毎日消毒している。新鮮な野菜や魚などを届けてもらうようにしている。		継続していききたい
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場から玄関がわかりにくいので、玄関周りに花を置いて、家庭的な雰囲気になるよう心がけている。		ホームに入りやすい雰囲気になるよう玄関先には生け花の先生に花を生けてもらうなど協力していただいている
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは自然の光を取り入れ、季節の花や壁画を飾り、居心地よく生活できるよう配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいでテレビを見られる方や一人掛けの椅子で塗り絵など行っている。また隣の棟へ行き話しをしている人もいます。		

グループホームさくら(東棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやテレビなど今まで使っていたものを持ち込んでもらっている。写真や思い出の品など飾り、それぞれの居室作りができています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝掃除をして換気も行っている。入居者の体調などに気をつけ空調管理している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや廊下・浴室に手すりをつけ安全に移動できるようにしている。歩行不安定の方には見守りを行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレなどを分かりやすく表示している。混乱を招くものは撤去し、安定した生活ができるようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	デッキで日光浴や食事が出来るようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホームさくら(東棟)

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族との連携を深めて、入居者と家族の関係をよりよいものになるよう支援している。